

令和7年度 マンション管理士試験解答速報 【12/2版】

問1	2	問11	2	問21	3	問31	3	問41	1
問2	1	問12	2	問22	3	問32	1	問42	4
問3	2	問13	2	問23	4	問33	1	問43	2
問4	3	問14	4	問24	2	問34	4	問44	3
問5	4	問15	2	問25	4	問35	4	問45	1
問6	1	問16	2	問26	4	問36	2	問46	4
問7	2	問17	4	問27	3	問37	3	問47	3
問8	1	問18	4	問28	1	問38	4	問48	3
問9	3	問19	2	問29	1	問39	1	問49	3
問10	2	問20	2	問30	3	問40	2	問50	3

※後日情報を更新する場合もございます。あらかじめご了承ください。

※この解答速報の著作権はTAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

※TACの合格推定点は[12/9\(火\)](#)に発表予定です。あらかじめご了承ください。

TAC マンション管理士講座

令和7年度マンション管理士試験講評

(本試験所感)

全体的な難易度について、まず区分所有法に関しては昨年までのような細かい判例の出題はなく、また民法も昨年より解きやすかったと思われる。標準管理規約に関しては条文問題が中心となり、さらに設備に関しては過去問論点と新規論点が混じていたが判断に支障がなかったため、昨年より合格点が上がると思われる。問題形式では、個数問題が昨年より5問減り1問、組合せ問題が2問減り3問出題された。過去問論点はしっかりマスターし、1問も落とさない対策が求められる。

(民法・区分)

出題形式としては、民法・区分所有法ともに個数問題の出題はなく、区分所有法で組合せ問題が1問のみ出題された。また昨年と同様に被災区分所有法と建替え等円滑化法が1問ずつ出題された。内容的には、区分所有法は昨年と同じ難易度、民法は易しくなったといえる。どちらも基本的な論点に対する理解と正確な知識が求められた。特徴的な点として、令和4年・5年と続けて出題されていた判例を題材とする出題はなく、また管理組合・団地管理組合について総合的に問う問題の出題もなかった。

(規約・会計)

標準管理規約は、問われている事項は基本的であった。区分所有法や民法と組み合わせた融合問題が2問、団地型と複合用途型から1問ずつ出題されたことが特徴である。不動産登記法は、区分所有法との融合問題が2問出題された。また、会計は仕訳と決算に関する説明が出題されたが、過去問で対応可能である。

(維持・保全)

コンクリートや構造等で過去未出題の論点もあったが、大半は過去問で対応できる問題であった。設備や法令は過去問で出題された問題の繰り返しが多く、ほとんどであり、十分得点できたと思われる。昨年度より、やや易しい難易度だったと思われる。また、昨年度と同様組合せ問題が2問出題された。直近に出題された過去問や繰り返し出題されている重要な過去問をどれだけ正確に覚えられたかで、合否を分けたと思われる。

(適正化法)

個数問題は、昨年より2問減り1問だった。今年も組合せ問題は出題されなかった。昨年と同様、解答が出しにくい問題はなく、難度はそれ程高くなかったと思われる。今年も、近年の改正論点が中心となり出題されていた。

※この講評の著作権は TAC 株式会社のものであり、無断転載・転用を禁じます。